

## 2024年12月期第3四半期 決算説明会

小林製薬株式会社

執行役員 CFOユニット ユニット長

中川 由美

2024.11.8

CFO 中川です。私から 2024 年 12 月期第 3 四半期決算のご報告をさせていただきます。資料に沿ってご説明いたしますので、本日リリースした資料がお手元にある方は、そちらもご参照いただければと思います。

前半で、紅麹事案に関する状況につきまして簡単に進捗報告をさせていただき、後半で、第 3 四半期の決算の具体的な内容につきましてご説明をさせていただきます。

## 紅麹関連製品に関して

**この度は、当社紅麹関連製品に関してお客様やお取引先様をはじめ、当社に関係する様々な皆様に多大なるご迷惑、ご心配をお掛けしており、改めて深くお詫び申し上げます。**

**お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の皆様にご心からお悔やみ申し上げます。また、現在も入院中、治療中の方の一刻も早いご回復をお祈り申し上げます。**

まず初めに、この度は、関係する皆様に多大なるご心配やご迷惑をおかけしております、深くお詫び申し上げます。

お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の皆様にご心からお悔やみ申し上げます。また、現在も入院中、治療中の方の一刻も早いご回復をお祈り申し上げます。

日付	内容
8月19日	当社の紅麹コレステヘルプ等の摂取により健康被害にあわれたお客様への補償を開始。
9月17日	「再発防止策の策定に関するお知らせ」を発表。
9月18日	厚生労働省が原因究明に関して発表。フヘルル酸が腎障害を引き起こし、化合物Y、Zは腎障害を引き起こさないことを確認。
10月8日	「報酬の一部辞退に関するお知らせ」を発表。
10月10日	大阪市が本事案を「食中毒であると判断することが妥当」と発表。

3 ページにおきましては、前回 8 月の中間決算以降の主な動きについてまとめておりますのでご覧ください。

## 紅麹コレステヘルプ等に関する事例数

4/29ページ

2024年11月3日時点

死亡に関連する お問い合わせ数 ※1	撮取の実態なし ※2	272	
	撮取実態確認中	0	
	詳細調査対象 ※3	125	
	(内訳)	調査継続 ※4	10
		調査完了	43
		その他 ※5	72
(合計)	397		
入院 ※6	523 (329)		
通院 検査入院を含む ※6	2,069 (1,555)		
受診者計 入院+通院 ※6	2,592 (1,884)		
健康相談の件数	約11,200件		
全ての受付数 健康相談以外のお問い合わせを含む	約150,000件		

- ※1 件数の表示方法の変更前に公表していた5事例を含む  
 ※2 紅麹コレステヘルプ等を撮取していなかったことが確認された件数  
 ※3 確認の手続きの対象となる件数  
 ※4 現在詳細調査中の件数  
 ※5 詳細調査の同意が取得できない等のため調査が困難な件数  
 ※6 カッコ内は腎関連疾患のみの件数

(「入院」「通院」「受診者計」「健康相談の件数」「全ての受付数」は、のべ数)

4 ページです。11月3日時点でのお問い合わせ状況のまとめとなります。

死亡に関連するお問い合わせにつきましては、全部で 397 件、うち 272 件は撮取がございませんでした。125 件が調査対象となっております。このうち 43 件は調査が完了しておりまして、現段階で、明確に撮取と死亡との因果関係があるものはございません。残り 10 件がまだ調査継続中でございますので、しっかり確認していきたいと考えております。

入院・通院・受診者計・健康相談の件数・全ての受付数の数字も最新のものに更新しております。次のページで、この方々への補償の状況についてご説明をいたします。

## 健康被害補償（入通院）の進捗状況（2024年10月31日時点） 5/29ページ

### ■ 補償対象の判定状況 ※件数はのべ数



実際に入通院にかかった補償についての状況につきましては、5ページをご参照ください。

10月末時点で、延べ約1,150件のご連絡をいただいております。ご連絡をいただいた皆様に、審査に必要な書類を送付しております。

その書類が、弊社に返送されてきた方が約650件ございまして、審査の結果、完了されている方が約250件、現在確認中の方が約400件となっております。

1. 品質安全に関する意識改革と体制強化

項目	内容・進捗状況
(1) 意識改革：「品質・安全ファースト」	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質・安全に関する全役職員向けの教育・研修体制を構築。</li> <li>→執行役員向けの食品衛生教育を実施。</li> <li>全役職員向けの教育コンテンツを取りまとめ中。</li> <li>2025年1月より教育プログラムをスタート。</li> </ul>
(2) 体制強化①：品質保証体制	
ア 責任部署の明確化	<ul style="list-style-type: none"> <li>信頼性保証本部を事業部から独立した責任部署として位置付ける。</li> <li>→2025年1月より新組織体制でスタートすべく検討中。</li> </ul>
イ 品質管理体制の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質管理部門及び監査部門の役割と責任の明確化。</li> <li>→2025年1月より新組織体制でスタートすべく検討中。</li> </ul>
ウ 専門部署の新設	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発及び製造の関連法規を専門的に扱う部署の新設。</li> <li>→2025年1月より新組織体制でスタートすべく検討中。</li> </ul>

続きまして、6 ページとなります。

9 月 17 日に、再発防止策を発表いたしましたが、本日はその中から、各工場の点検の状況や、コーポレートガバナンス強化の進捗状況につきましてご説明いたします。

1. 品質安全に関する意識改革と体制強化

項目	内容・進捗状況
(3) 体制強化②：マネジメント体制	
ア 工場のカバナス体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各工場の定期監査（第三者監査を含む）の実施。 →次ページで詳細説明。</li> <li>・各工場の課題抽出や課題精査を担う「工場ものづくり推進部（仮称）」の新設。 →2025年1月より新組織体制でスタートすべく検討中。</li> </ul>
イ 関連ルールの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品カテゴリー毎に法令・各種ガイドライン、ルールを整備。 →まずは食品カテゴリーで設計品質や製品品質基準について議論中。 2025年1月よりスタートする新組織体制にて他カテゴリーへ展開。</li> <li>・品質保証方針の社内浸透。 →全役職員が朝礼時に毎週唱和を開始。</li> <li>・ものづくり部門が同じ目線で品質強化活動を推進するため、品質保証方針の具体的な行動準則として「ものづくり品質行動方針」を制定。 →2025年1月よりスタートする新組織体制の中で、実行性高い方針を制定する。</li> </ul>

## 各工場の監査状況（自主点検）

8/29ページ

8月8日の2024年12月期第2四半期決算説明会にてご報告した「口から摂取する全製品（サプリメント、医薬品等）」の自主点検に加えて、「肌に触れる製品」に対しても実施。

### <自主点検内容>

- ・異物、菌などの混入、カビ毒など未知成分の産生リスクが無いか
- ・工場の衛生基準は適切に設定され、運用ができているか（GMP基準、及び準ずる運用、衛生管理教育、等）
- ・手順が定められ、製造記録を残せる運用ができているか（手順書、記録書等の整備状況）
- ・手順書の内容通り製造ができているか



### <結果>

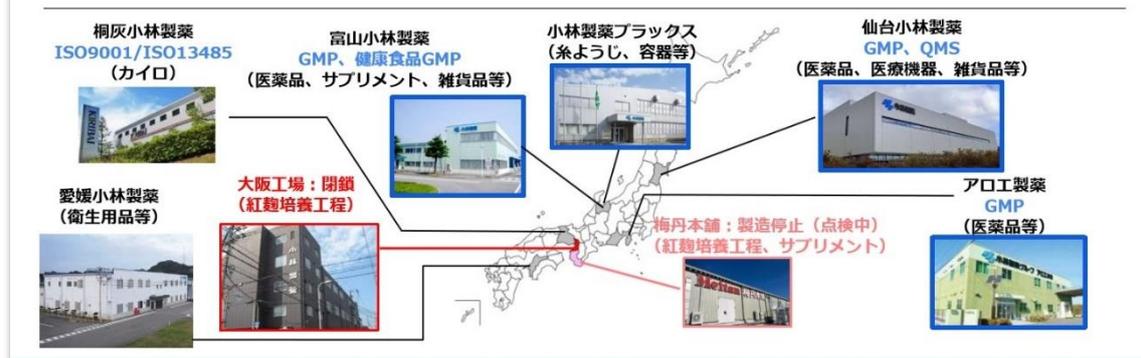
肌に触れる製品のラインに対しても重篤なリスクは発見されなかった。

2024年8月8日の中間決算では、口から摂取する製品の自主点検を行い、重篤なリスクは発見されなかったことをご報告いたしました。その後、肌に触れる製品に対しましても、同様の自主点検を行い、こちらも重篤なリスクは発見されませんでした。

## 各工場の監査状況（第三者機関による監査）

9/29ページ

実施時期 : 2024年10月  
対象工場 : 国内4工場（富山小林、アロエ製薬、ブラックス、仙台小林）  
対象ライン : 口に入る・肌に触れる製品生産ライン（医薬品除く）  
チェック項目 : 衛生管理（防虫防鼠含む）を中心に、リスクアセスメント、教育、施設設備の管理（保全）等



続きまして、9 ページ。第三者監査の状況です。

医薬品は GMP の定期監査があるため対象外としておりまして、それ以外の口に入る、あるいは肌に触れる製品の生産ラインについて監査を実施いたしました。

**<監査結果>**

ただちに重篤な品質不具合の発生につながるような指摘は無かった。  
しかし、自主点検では分からない視点、特に衛生管理に関連する専門的かつ客観的な指摘を複数受けた。（詳細は次ページ）

**<今後の予定>**

自主点検や第三者監査の結果を踏まえ、今後さらに高い品質管理レベルを目指し、改善を進めていく。

結果、10 ページにまとめております。

こちらにも、直ちに重篤な健康被害を発生させるリスクはなかったものの、自主点検では分からない視点、特に衛生管理に関連する専門的かつ客観的なご指摘を複数いただいております。

今後は、自主点検や第三者監査の結果を踏まえて、さらに高い品質管理レベルを目指して改善活動を進めてまいりたいと考えております。

＜監査での主な指摘事項＞

①リスクアセスメント

自社視点で品質リスクを踏まえた工程管理設計を行い、それぞれの工程で一定の管理方法が定められているが、より専門性・客観性の高い要員体制で計画的な製造工程及び製造環境を網羅した品質リスクアセスメントの実施に強化すべき点がある。

②教育訓練

作業現場の各所で破損や劣化した器具や部品に対するルールが定められており、頻度を決めてチェックされているが、一部では破損した状態のまま使用されている状態があった。作業現場のリスクがどこに存在するのか、決められたルールを守らないとどうなるのかを周知することで衛生管理に対する意識を促すなど、作業教育に強化すべき点がある。

③施設・設備の管理

日常的あるいは定期的な設備点検・保全ルールはあるものの、製品特性に合わせた専門的視点と劣化等を踏まえた計画的な視点での設備改善・維持管理活動に工場によってバラつきがあることに、強化すべき点がある。

④有害生物の駆除

外部業者の活用も含めて防虫防鼠のモニタリング、発生事象に対する応急対応は出来ているが、他方で、発生原因の網羅的な分析をもとにした恒久対応（駆逐）を進めることに、強化すべき点がある。

11 ページに詳細を記載しておりますので、ご覧いただければと思います。

1. 品質安全に関する意識改革と体制強化

項目	内容・進捗状況
(3) 体制強化②：マネジメント体制	
ウ 業務フローの見直し	
ア) 開発部門と工場の協働	・開発部門と工場の連携強化を図るため、「量産化見直し会議（仮称）」を実施。 →2024年11月より、製造本部内でテスト運用開始。 その後、2025年1月から本格運用を目指す。
イ) 新規技術領域における製造管理・維持管理等の向上	・新規技術領域への進出や事業拡大時における PMIのあり方を再考。 →技術戦略プロジェクトで既存技術の棚卸しを開始。 自社の強み・弱みを明確にした上で PMI時のチェック項目を見直す。
ウ) 製品検査の強化	・意図しない成分の混入を確認する手順や検査方法を検討・開発 →2025年1月以降、製品特性に応じた新規手順・検査の導入に向けて検討中。
エ 人事評価制度の刷新	・品質・安全に貢献する活動を評価の対象とする評価制度を導入。 →人事・研究・製造と、評価すべき品質活動と評価方針を策定し、 2025年1月以降の新・評価体制導入を目指す。

## 2. コーポレートガバナンスの抜本的改革

項目	内容・進捗状況
(1) 創業家依存経営からの脱却	・新社長が旗手となり「品質・安全ファースト」を旨とする経営のかじ取りを進める。 →創業家出身の代表取締役2名が既に辞任。 →特別顧問の履行状況等を取締役会へ適時に報告している。
(2) 機関設計の再検証	・機関設計の妥当性や改善点の検証。 →2025年3月定時株主総会に向けて検討中。 ・最適な取締役会構成及びスキルマトリックスのあり方の深耕。 →2025年3月定時株主総会に向けて検討中。

続きまして、再発防止策の発表した内容に沿って進捗を記載しております。

13 ページ以降のコーポレートガバナンスの抜本的改革についてご説明いたします。こちらは、再発防止策の後半部分に当たる内容となりますが、内容は(1) 創業家依存の経営からの脱却から、(8) リソースを踏まえた取捨選択まで8つございますけれども、それぞれをアクションに落とし込み、具体的に始められることから進めている状況です。

再発防止策リリースのあと、コーポレートガバナンスのプロジェクトとして立ち上がっておりまして、私がリーダーとなり、執行役員、木村（サステナビリティ経営本部 人事・総務統括部 統括部長）がサブリーダーとして、(1) から (8) を、部長クラスの者をカテゴリーリーダーとして活動を進めております。

2. コーポレートガバナンスの抜本的改革

項目	内容・進捗状況
(3) 取締役会による監督強化	
ア 社外取締役による監督の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取締役会議長を社外取締役が担うことを前提とした定款変更。 →2025年3月定時株主総会に向けて検討中。</li> <li>・議長の下、コーポレートガバナンス強化に資するアジェンダを設定。 →取締役会アジェンダを決定すべく検討中。</li> <li>・社外取締役と監査役との連携の仕組み強化。 →社外役員への情報提供のあり方を決定すべく検討中。</li> </ul>
イ 取締役会と執行サイドによる定例会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取締役会と執行サイドの定例会議を実施。 →定例会議の概要（メンバー・時期等）を決定すべく検討中。</li> <li>・取締役会や監査役会へのリスク情報提供の仕組みの再整備。 →新設する「グループ協議会」にて、取締役会に上げるべきリスク情報をピックアップする運用をスタートすべく検討中。</li> </ul>
ウ 監査役への適時の情報共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Bad News First」の徹底。 →従前に比べてリスク案件は幅広く迅速に取締役会へ報告しており、さらなる意識啓発に向けた追加施策を決定すべく検討中。</li> </ul>

2. コーポレートガバナンスの抜本的改革

項目	内容・進捗状況
(4) GOMの廃止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な視点で各部門の課題について議論する「グループ協議会」を、最終意思決定機関として「経営執行会議」を、それぞれ新設する。</li> <li>→2024年10月より経営執行メンバー5名（社長・CFO等）でテスト運用開始。「グループ協議会」と合わせて、早期の本格運用開始を目指す。</li> </ul>
(5) 危機管理体制の整備	
ア 社長を責任者とする対応体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有事の際に「品質・安全緊急会議（仮称）」を開催し、迅速に対応を判断できる体制にする。</li> <li>→既存の回収検討委員会の概要（開催要件・メンバー等）を見直し中。</li> </ul>
イ 有事を想定したリスクマネジメント体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクマネジメント体制の強化。</li> <li>→全社的リスクを改めて洗い出し、重要リスクテーマを再選定中。その後、重要リスクテーマの有事対応シナリオ（コンティンジェンシープラン）を作成。</li> </ul>
ウ 有事の際の社内情報共有体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有事の際に品質・安全を最優先とする情報共有システムの構築。</li> <li>→早期のシステム構築に向け、検討中。</li> </ul>

プロジェクト会議として進捗状況を確認するという体制もっております。一つ一つは細かいためご説明いたしません、15 ページの (4) GOM の廃止というものがございます。こちらにつきまして、少し触れさせていただきます。

GOM は小林製薬の経営会議という位置づけになるものでしたが、そのあり方の見直しをしております、既に経営執行メンバーとして 5 名、これは社長の山根と私も入っておりますけれども、5 名が決まっております、活動を始めております。

今までと違った経営会議で、より活発な意見交換の場になっていると感じております、運用しながら、よりブラッシュアップしていっている状況でございます。

2. コーポレートガバナンスの抜本的改革

項目	内容・進捗状況
(6) リスク・コンプライアンス体制の強化	
ア ガバナンス推進会議の再整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部統制やコンプライアンスを監督する「ガバナンス推進会議」に、これまで上がってこなかった品質関連テーマも取り上げ、コーポレート部門の視点から牽制を行う。</li> <li>→2024年末までにガバナンス推進会議の目的や運用方法（メンバー・開催頻度等）を決定し、2025年1月から新会議体制で運用開始。</li> </ul>
イ 誠実さを行動準則とした組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「インテグリティ経営」を推進するための専門部署の設置。</li> <li>→2025年1月より専門部署を立ち上げる。</li> <li>具体的なアクションプランは新組織にて今後検討していく。</li> </ul>

## 2. コーポレートガバナンスの抜本的改革

項目	内容・進捗状況
(7) 対外的なコミュニケーション・情報発信の改善	・研究開発部門や品質保証部門において、より専門性を高められる組織編成を行う。 →2025年1月より新組織体制でスタートすべく検討中。
(8) リソースを踏まえた取捨選択	・品質、安全性を重視した適切な人員確保を行う。 →各部門で行っている業務の整理と削減を行うべく精査中。

---

# 2024年12月期第3四半期 決算業績報告

それでは、後半の決算のご説明に入っていきたいと思います。

## 国内事業

(カッコ内の数字は対前期)

トータルでは▲71億（▲7.9%）の減収。

- ・ 訪日客の増加に伴ってインバウンド需要の増加（+24億）
- ・ 「消臭元ZERO」や「ヒプキュア」などの新製品が貢献（+33億）
- ・ 紅麹関連製品の回収や広告中止の影響で、既存品が減収（▲97億）
- ・ 暖冬によるカイロ返品増（▲12億）
- ・ 通販の定期購入解約による減収（▲19億）



## 国際事業

(カッコ内の数字は対前期 ※為替影響含む)

トータルでは円安による為替換算影響もあり+25億（+9.2%）の増収。

- ・ 米国 : 昨年M&AしたFocus社が貢献し増収（+34億）
- ・ 中国大陸 : 7月までの広告停止の影響をカバーしきれず減収（▲15億）
- ・ 香港地域 : 中国大陸からのインバウンド需要の反動で微減収（▲2億）
- ・ 東南アジア : 昨年の熱さまシート特需の反動がありつつも増収（+3億）
- ・ その他地域 : 各国でカイロや熱さまシートが好調（+5億）

19 ページ。第3 四半期累計の業績サマリーとなります。

国内は、トータルで対前年ではマイナス 71 億円、マイナス 7.9%の減収となり、国際事業は対前年プラス 25 億円、プラス 9.2%の増収を実現いたしました。

国内事業は、この中にインバウンド需要の増加 24 億円を含んでおりまして、また、消臭元 ZERO やヒプキュアなどの新製品はプラス 33 億円と貢献しております。反面、紅麹関連製品の回収等の影響で、既存品が苦戦をしております、マイナス 97 億円となっております。また、カイロの暖冬の影響による減収や通販の苦戦もございまして、トータルでは減収となっております。

国際事業は、為替影響もございしますが、中国や香港の減収を他の地域でカバーし、トータルでは増収の結果を得ることができました。また、各国のページでご説明をさせていただきます。

紅麴関連製品回収等に伴う特別損失22億円(3Q累計101億円)を計上。

(単位：億円)	2023年		2024年					
	7-9月	1-9月	7-9月			1-9月		
	金額	金額	金額	対前期	利益率	金額	対前期	利益率
売上高	454	1,191	413	▲9.2%	-	1,144	▲3.9%	-
売上総利益	256	681	219	▲14.3%	53.1%	626	▲7.9%	54.8%
営業利益	89	193	75	▲16.4%	18.2%	169	▲12.4%	14.8%
経常利益	96	208	74	▲22.5%	18.1%	179	▲14.0%	15.7%
当期純利益	76	154	39	▲48.8%	9.5%	53	▲65.5%	4.7%
EBITDA ※	104	236	95	▲8.6%	23.1%	228	▲3.3%	20.0%

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

20 ページ。連結の業績となります。

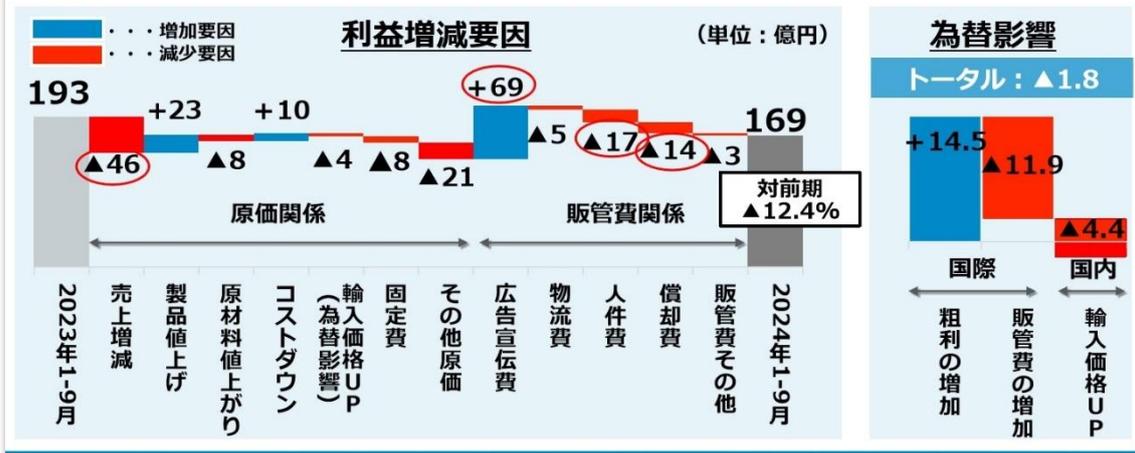
第3四半期累計の売上高は1,144億円で、前年度の比較ではマイナス3.9%。営業利益は169億円で、マイナス12.4%。当期純利益におきましては53億円で、マイナス65.5%の減益の結果となりました。

第3四半期におきましても、紅麴関連製品回収等に伴う特別損失を22億円、追加計上しておりまして、第3四半期累計では合計101億円となっております。これは9月までの発生分と、10月以降に発生を見込むものにつきましても、合理的に見積もれるものにつきましては計上しているものとなります。

## 連結営業利益増減要因

21/29ページ

広告中止で利益を押し上げた一方、売上減や人件費増の影響に加え、23年10月にM&AしたFocus社の償却費増も影響し、減益で着地。



21 ページ。連結営業利益の増減要因となります。

第3四半期累計の営業利益は169億円となり、前年193億円から24億円の減益となっております。増加要因を青のブロック、減少要因を赤のブロックで示しております。

大きな要因として、広告を抑えている影響でプラス69億円となっておりますが、減収の影響が46億円マイナス、人件費増が17億円、償却費増が14億円などもあり、結果減益となっております。

為替の影響は、プラスとマイナスの要素がございましたが、利益においては仕入価格への影響のほうが今期は大きく出ておりまして、ネットでマイナス1.8億円の結果となりました。

ヘルスケアは苦戦するも、日用品は伸長。カイロ・通販は減収

(単位：億円)		2023年		2024年			
		7-9月	1-9月	7-9月		1-9月	
		金額	金額	金額	対前期	金額	対前期
売上高	ヘルスケア	165	474	132	▲19.7%	431	▲9.2%
	日用品	136	348	138	+1.2%	352	+1.2%
	カイロ	7	25	6	▲16.5%	13	▲46.7%
	通販	18	56	9	▲47.8%	36	▲34.9%
	合計	328	905	287	▲12.5%	834	▲7.9%
営業利益計		66	160	62	▲7.2%	159	▲0.1%
(率)		20.4%	17.7%	21.6%	-	19.2%	-

※ 9月13日に糸ようじ・やわらか歯間ブラシ等の自主回収を実施。  
営業利益に約3億円のマイナス影響。

国内事業を見ていきたいと思えます。22 ページとなります。

第3 四半期累計の売上高は、トータルで 834 億円の 7.9%減収の結果となりました。日用品は、第3 四半期も前年比プラスで推移しておりまして、第3 四半期累計でもプラスの 1.2%となっております。日用品以外につきましては、全体的に前期と比べまして、マイナスの結果となっております。

ヘルスケアは、紅麹事案を受けて食品カテゴリーが苦戦をしていることと、今期は日本歯科医師会の推薦取り消しによる糸ようじ、歯間ブラシ等の自主回収の影響がございまして、マイナス 9.2%。カイロは暖冬の影響があり、前期から 12 億円マイナスの 13 億円となっております。通販は、4 月以降解約の申し出の影響もあり、36 億円でマイナス 34.9%となりました。

営業利益につきましては 159 億円で、前年の 160 億円からほぼフラットの結果となっております。

紅麹の影響を一部受けつつも、訪日客の増加に伴い、コロナ前並みで推移。  
 コロナ禍で発売した新製品でインバウンドの兆候が見られるものも。



続きまして、国内事業のインバウンドの影響をご説明いたします。

第3四半期累計では73億円の結果となっております、コロナ前ピーク時の2019年と比較してもほぼ同水準となっております。また、第3四半期までの売れ筋商品は、コロナ前と大きくは変わっておりません。

国際事業（地域別業績）

24/29ページ

中国大陸・香港地域の減収、Focus社の償却費等が影響し、  
トータルは増収減益（為替影響：売上高+23億円、営業利益+2.6億円）

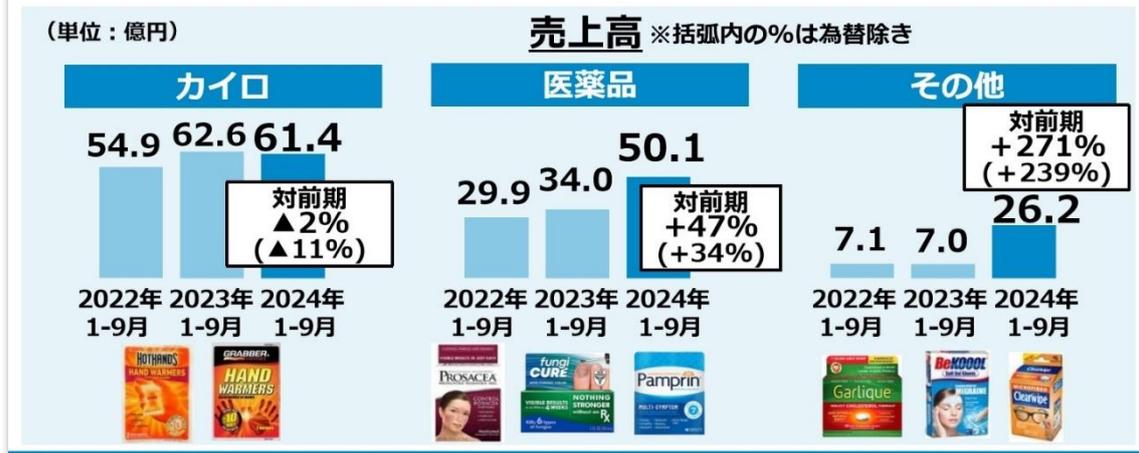
(単位：億円)		2023年		2024年					
		7-9月	1-9月	7-9月			1-9月		
		金額	金額	金額	対前期	対前期 (為替除く)	金額	対前期	対前期 (為替除く)
売上高	米 国	57	103	68	+20.0%	+12.8%	137	+32.7%	+21.2%
	中国大陸	29	69	20	▲30.8%	▲34.1%	54	▲21.8%	▲26.6%
	香港地域	8	22	6	▲20.5%	▲23.0%	20	▲8.2%	▲16.4%
	東南アジア	21	59	18	▲15.0%	▲18.3%	62	+5.1%	▲1.3%
	その他	9	24	11	+22.9%	+16.4%	30	+23.1%	+11.7%
	国際計	125	280	125	▲0.2%	▲5.5%	306	+9.2%	+0.7%
営業利益計		20	29	12	▲40.3%	▲48.5%	7	▲74.3%	▲83.2%
(率)		16.7%	10.6%	10.0%	-	-	2.5%	-	-

続きまして、国際事業について触れていきたいと思えます。24 ページとなります。

第3 四半期累計の売上は 306 億円で、対前期でプラス 9.2%の増収となりました。為替影響を除くと、国別ではプラスマイナスございますけれども、トータルでは 0.7%の増収の結果となりました。

営業利益は 7 億円で、昨年秋に買収いたしました、Focus 社の販管費の増分や、のれんの償却が影響したこともございまして、前年比マイナス 74.3%となっております。

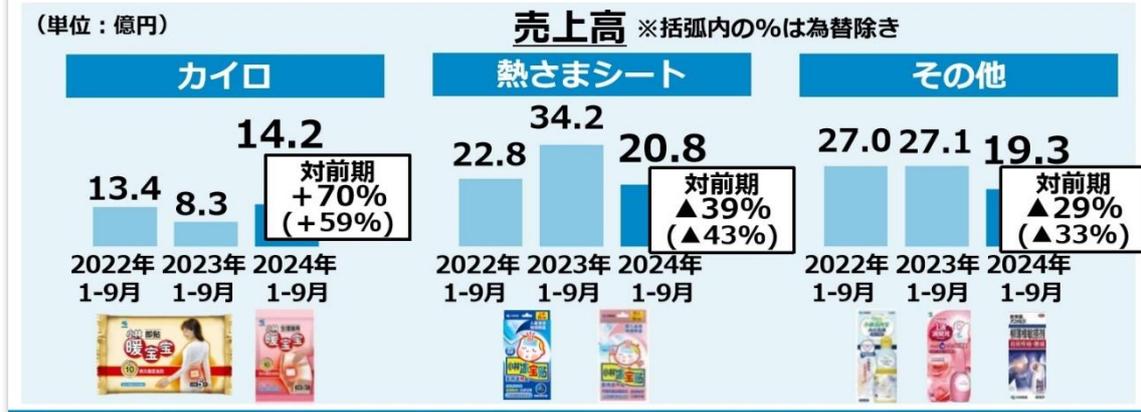
カイロが暖冬で苦戦するも、医薬品・その他は23年10月にM&AしたFocus社の連結影響や為替の影響もあり増収。



国別に見ていきたいと思えます。まず、アメリカとなります。25 ページです。

カイロが暖冬で苦戦をしておりますけれども、Focus 社が連結に加わったこともあり、医薬品、その他の売上は大きく増収となっております。

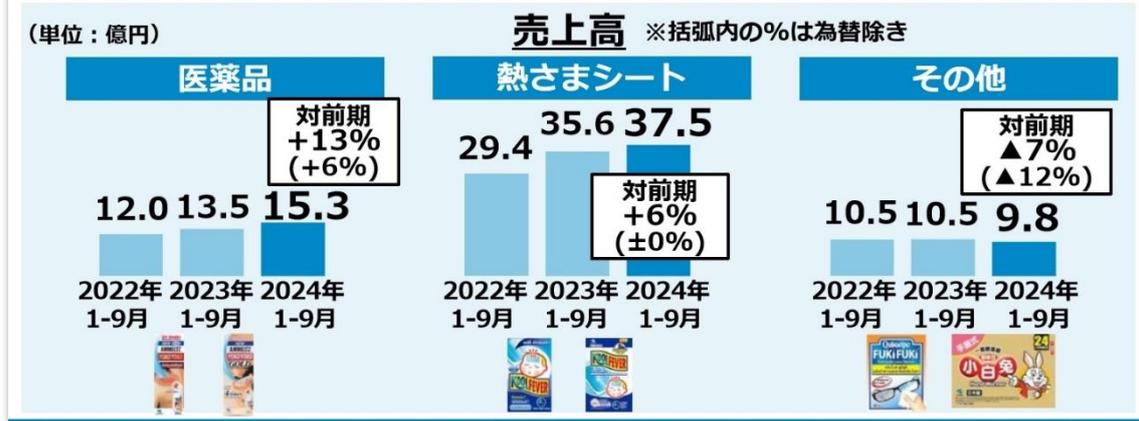
7月までの広告停止の影響をカバーしきれず全体的に苦戦。  
 カイロは昨年暖冬による需要減の反動、配荷量販の拡大により増収。  
 熱さまシートは昨年の特需による反動もあり減収。



中国大陸です。26 ページとなります。

カイロにつきましては、昨年暖冬だったことや、量販拡大の影響があり、プラスとなっております。熱さまシートは、昨年のコロナの特需の反動がありましたので、比較してマイナスとなっております。広告を停止していた影響もあり、全体的に苦戦をしておりましたが、8月後半より広告を再開しており、9月以降、前年を上回る売上と回復しております。この後期待ができると考えております。

医薬品はアンメルツが好調。  
 熱さまシートは昨年の各種感染症の特需の反動もありつつ、トータルでは増収。台湾地域の暖冬によりカイロは減収。



続きまして、東南アジアです。

医薬品は、アンメルツが好調で増収となっております。熱さまシートも、コロナ、インフルエンザなど各種感染症にも使用される生活習慣が根づきまして、増収の結果となっております。

紅麴関連製品回収等に伴う特別損失の追加計上に伴い、当期純利益を修正

(単位：億円)	2023年12月期 実績	2024年12月期予想 (2024/8/8公表)		2024年12月期予想 (2024/11/8公表)		
	金額	金額	対前期	金額	対前期	利益率
売上高	1,734	1,690	▲2.6%	1,690	▲2.6%	-
営業利益	257	240	▲6.9%	240	▲6.9%	14.2%
経常利益	273	255	▲6.7%	255	▲6.7%	15.1%
当期純利益	203	121	▲40.5%	107	▲47.4%	6.3%
EBITDA ※1	317	319	+0.4%	319	+0.4%	18.9%
EPS	268.16円	162.77円	▲29.3%	143.94円	▲46.3%	-
ROE	10.1%	5.7%	-	5.2%	-	-
国内事業売上高	1,304	1,205	▲7.7%	1,205	▲7.7%	-
国際事業売上高 ※2	422	480	+13.5%	480	+13.5%	-

※1 EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額 ※2為替レート：150円/米ドル、21.0円/中国元

続きまして、28 ページにまいります。

今回、以前公表しました通期の見通しを、特別損失の増加に伴い修正をしております。  
青字の当期純利益を 107 億円として、今期の予測としてご提示いたします。

その他売上高、営業利益等は変更ございません。

**まずは補償と再発防止策をしっかり進め、品質と安全を第一に、小さな信頼をひとつずつ積み重ねてまいります。**

**そのうえで、今後長期の目線で企業価値を向上させるべく、品質並びに人的資本を第一とする投資判断のあり方、事業ポートフォリオの再編の検討、キャッシュアロケーション・株主還元の方向性の見直し等、今後の発表に向け検討を進めてまいります。**

最後のページになりますけれども、現時点におきましては、補償や再発防止策、ガバナンス強化を実施していくことが最優先だと考えております。今後もその進捗状況を含めて、内容・方向性につきまして丁寧にご説明していきたいと考えております。

その上で、変えるべきこと、また当社の良さとして変えてはいけないことなどの検討を進め、来年2月の本決算には、中長期の方向性もお示ししていきたいと考えております。

公表すべき事項がございましたら、決定次第速やかにお知らせしていきますので、今後どうぞよろしく願いいたします。

以上、2024年12月期第3四半期の決算のご報告とさせていただきます。ありがとうございました。